

## (48) 茨城県笠間市の加賀田鉱山

参考文献(1)、(2)そして(3)を手引きに、数年の間をおき、数回の探査を行った。タングステン鉱石である灰重石を産出していた鉱山である。現地の最初の探査は、文献(1)を手引き、2010年3月であった。が、現地と思われるあたりは、手引きの内容とは全く異なった様相であった。コンクリート施設、坑口跡、ズリを確認できなかった。石垣組の鉱山施設跡らしいものはあったが、コンクリート製ではない。また、肝心の林道も記述とは全く異なっていた。山中に設置したコンクリート施設は、廃山に当たっては放置される場合が殆どである。そのコンクリート施設が確認できないということは、場所が違うのではないかと考えた。それ以降、そのままとなっていた。

その後、文献(2)、(3)を手にすることができた。この2つの文献中の地図からすると、先に探査を行った現地が、加賀田鉱山跡であるとの確信を得た。あの石垣組は明確な鉱山施設跡であると判断した。再探査に出かけた。ズリ跡を見つけることができ、山の斜面の根元当たりから水が流れ出している箇所を確認した。ズリの中には、灰重石とはいかないが、バラ輝石、灰鉄輝石、方解石、磁硫鉄鉱などが確認できた。

ホッパーであつたらしい石組み、各種鉱物に富んでいるズリ、完全に潰れたらしい坑口跡らしい箇所などから、結論として、加賀田鉱山跡を確認した。

現地への経路は次の通りである。50号を走ってきたならば、パープルラインに入り、南下して、その後、109号に入る。北関東高速道路ならば、友部ICを出て、109号に入れば良い。荒谷地区で車1台幅の細い村道に入る。先は分岐が多い村道であるが、どうにかこうにかして南下して行く。図1中に、黒線、1つのルートを書き込んでおいた。参考になろう。村道脇の民家がなくなり、村道は森の中に入るところに到達する。その手前左側に、適当な空き地がある(2014年3月現在)。車を置ける。ここから現地までは歩いて10分~15分。実は、現地の少し南に、東西に村道が曲がりくねって延びている。図1中の赤丸の直ぐ下。現地から斜面を少し登り上がると、この村道に登り上がることができる。少し藪こぎになるが。この村道は舗装された立派な道である。図2で明瞭である。結果論であるが、この舗装された村道から、現地へ斜面を下る方法もある。この村道に立つと見晴らしが良い。参考文献(1)に、同じような記述があった。

探査日 2010年、2013年3月

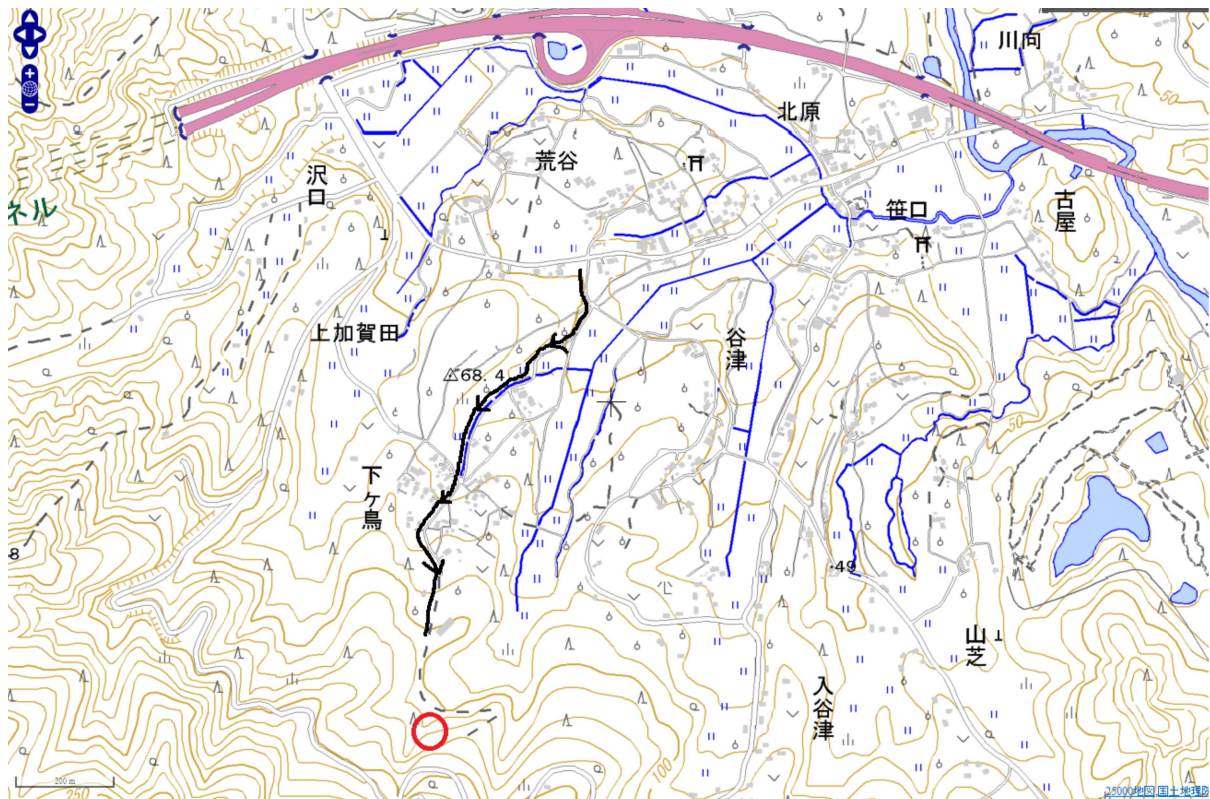


図1 Y a h o o の地図サービスより複写掲載。赤丸のところが加賀田鉱山跡。そこまでの村道は分岐が多い。109号からならば、黒線のように進むと良い。現地(赤丸)の直ぐ下(図中では)に、舗装された村道がある。そこから下るのも良い。

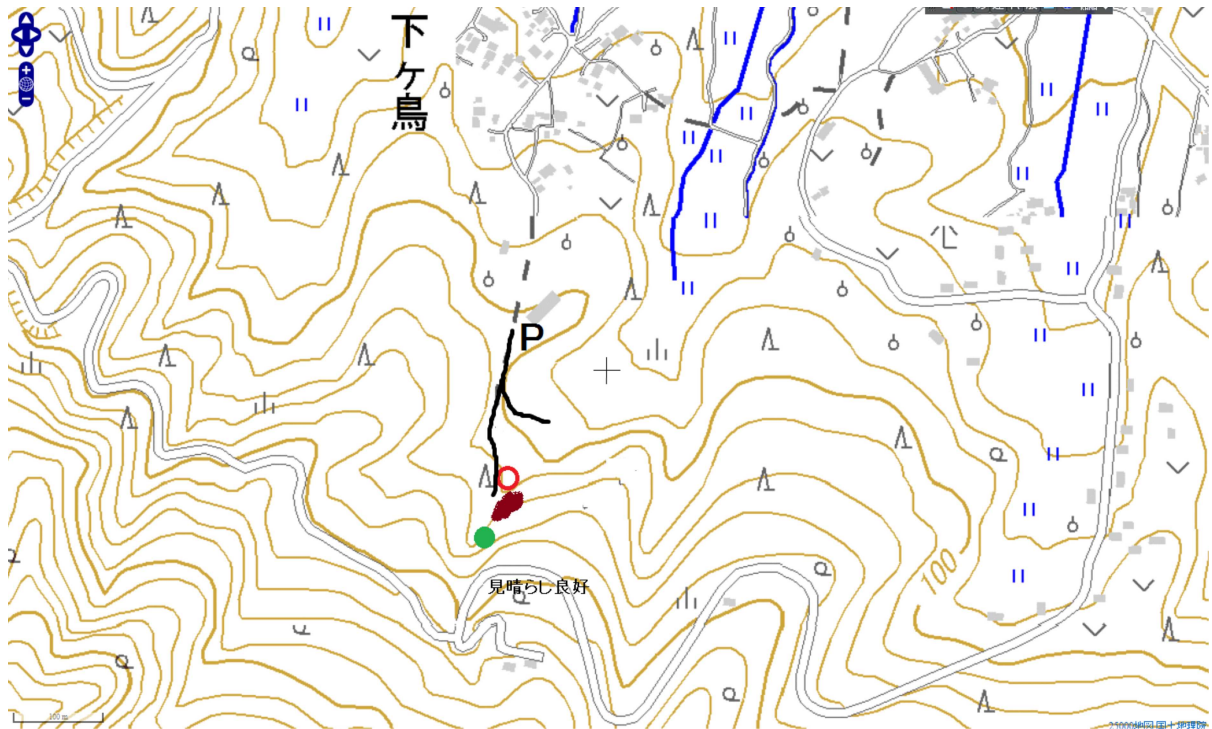


図2 図1の部分の拡大図に相当。P点は車を止めた場所。現地まで林道を黒線で書き込んでいる。図1にあるこの付近の林道であろう黒破線の先は、現地では確認できなかったので消去している。赤丸が3段の石垣組。鉱山遺蹟である。黄緑丸が潰れてしまったと思われる坑口跡。それらの間にズリが散在している。茶色ベタがズリ。坑口跡を登り上がると、見晴らしの良い、立派な村道に出る。

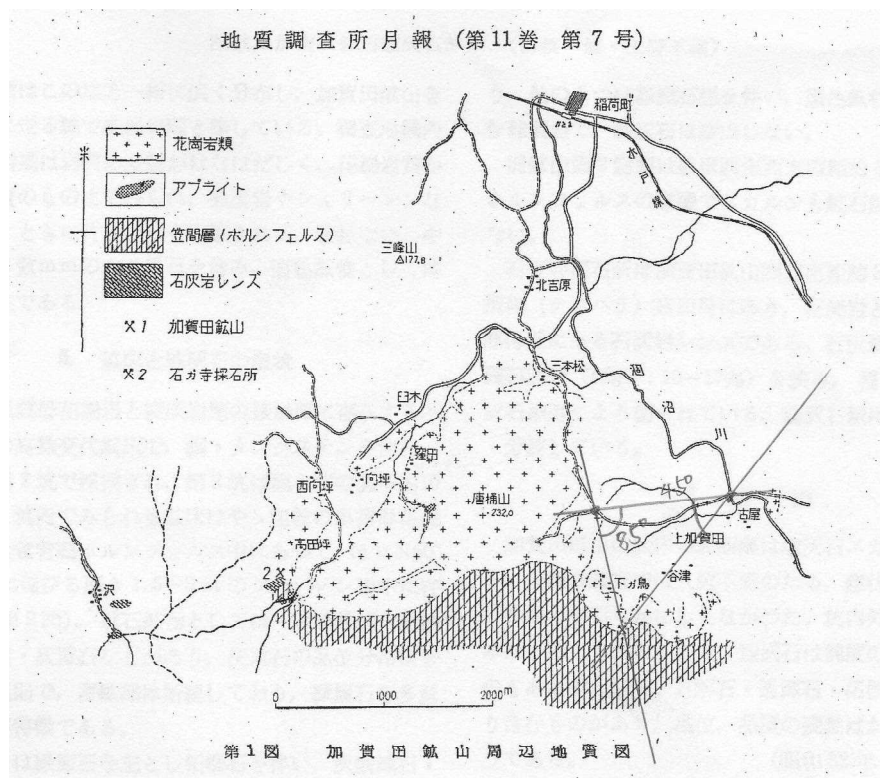


図3 文献(3)より。図の右下部に「下ガ鳥」の文字があり、その下に鉱山記号と数値1がある(図を拡大してみると)。三角法のための直線と角度が記されている。これを現在の地形図に、移して、最終的に加賀田鉱山の位置を確定した。



## 鉾山跡写真



写真1 109号線の荒谷バス停留所付近。前方は東方向。右手にある村道に入って行く。村道は現地まで車1台分の幅しかない。脱輪に注意。



写真2 このあたりまで車で来れる。左の空き地あたりに車が置ける。写真の左手には、放置された畜舎がある（2014年3月現在）。鉾山跡へは正面の林道に入って行く。



写真3 林道に入って直ぐに、左側に分岐林道がある。図1中の黒破線の林道入口と思われる。図2中では、黒破線の先の方は消している。林道の先は確認できなかった。ここは直進していく。最初の探査では、文献（1）の描いている林道は左側の枝林道であると考えたのであるが、その先には何もなかった。否、見つけられなかったのか。





写真4 林道を登ってくると、左側に3段構えの石垣組があった。ホッパー跡と思われる。ということは坑口は通常ならば、この水準より上にあると判断できる。なを、文献(1)のいうコンクリート製ではないか？台座の上に直立している杉並木の太さに時の流れを感じる。



写真5 石垣組を左手に見て、先に登って行くが、林道は不明瞭となる。直ぐに高さ50cm余りの取水用のコンクリート円柱が目前に現れる。その後の山の斜面は崩れている。旧鉱山の廃坑からの水を、地元の人が利用することが良くある。潰れた坑口跡と思う。



写真6 写真4と写真5の間に、広くズリの跡を確認した。そのズリ跡の一部。灰重石を見つけるのには「岩力」と根気が必要であろう。



加賀田鉱山は灰重石（タングステン鉱石）を産出した。灰重石を見つけたければ、「岩力」（＝眼力）のある人と同行するのが良い。或いは、灰重石は紫外線で発光するので、探査時の小道具に携帯用紫外線灯があると便利であろう。その時には、遮光袋か箱も持参した方がよい。日光のもとでは、蛍光はよく見えないからである。

なを、文献（１）には、採集したであろう標本の成分分布図がある。肝心の灰重石は１mm程度の大きさのものである。しかし、この鉱山では大きさ２cmの結晶を産出したとの記述もある。

## 採集鉱物写真

石



写真７ ズリの中に転がっていた榴石＋灰鉄輝石の石塊。



写真８ ズリ中で表面が赤茶色であった石塊をハンマーで一撃。破断面はきらきら光っていた。磁硫鉄鉱か。

## 参考文献

- （１）「鉱物採集の旅 関東地方とその周辺」、桜井＋加藤、築地書館、１９７２年。
- （２）「地学シリーズ３ 茨城県地学ガイド」、大山、蜂巢、コロナ社、１９７７年。
- （３）「茨城県加賀田鉱山珪灰石鉱床」、高橋、上野、地質調査所月報（第１１巻、第７号）、４５ページ～４７頁。